

令和6年度 第1回 学校健康教育部会研修会報告

日時…令和6年12月1日（日）9：45～12：00

場所…ウイंकあいち 1208会議室

参加者…46名

「個別的な相談活動が適切に行われるように ～栄養教育の学び直し～」

講師…相山女学園大学生生活科学部管理栄養学科 三田 有紀子氏

研修内容

研修会の目標として、①栄養教育マネジメントを確認する。②栄養教育の計画を立てる。③栄養教育の目標と評価がわかる。この3つの目標に沿って講義を受けました。

まず、栄養アセスメントでは、主観的情報と客観的情報の両方から相互的に判断し対象者の実態把握をすることが重要であり、個人要因（QOL、健康・栄養状態、食習慣、他の生活習慣、属性）と環境要因に分けて考え、具体的な数字を示すことで評価につながることを教えていただきました。アセスメントから抽出した課題の中で優先課題の決め方として、重要性和実現可能性の2軸で考えることで、効果的な栄養教育が進むことも学びました。

優先課題が決まったところで、目標を設定します。計画段階で評価基準を決定することでより具体的に実施できることがわかりました。

目標の設定では「SMART」S：具体的に、M：測定可能な、A：達成可能な、R 妥当な、T：期限付きに分類して決定していきます。それぞれ1点に絞ることがポイントです。

続いて評価について学びました。評価はPDCA サイクルそれぞれに評価があります。



講義の後に、個別的な相談指導の演習を行いました。

事例：小学校で中程度または高度肥満に該当した児童とその保護者

背景：4月および9月の身体測定の結果から、中程度および高度肥満と判定された児童のうち個別肥満指導への参加を希望した家庭の児童

まず、各自でアセスメント（主観的情報、客観的情報）を考え、課題を3つ抽出し優先課題を決定しました。その後

グループ交流を行い、この優先課題でよいのか確認した後、各自で目標の設定をSMARTに分けて考え、またグループで意見交換をした後、評価基準の設定を考えました。

順序だてて考えることで、実現可能な目標設定を考えることができたのと、グループ交流での情報交換で新たな視点で考えることができました。演題のとおり学び直しができました。

（報告者 扶桑町立高雄小学校 今枝朋子）

